

歴代誌第二 24 章 20 節 「神に見捨てられる」

1A 神に見捨てられた状態

1B 自然に啓示された神の義

2B 息一つの命

3B 聖徒の死

2A 神を捨てている状態

1B 打ち消される義

2B 取り上げらえる守り

3B 恐ろしい沈黙

3A 神に捨てられた方

1B 隔絶せしめる罪

2B 十字架にある声

3B お近くにおられるうちに

本文

歴代誌第二 24 章 20 節を開いてください。私たちは、歴代誌第二を通してユダの王たちの歴史を読んでいきます。午後礼拝で 21 章から 24 章までを学びます。

神の霊が祭司エホヤダの子ゼカリヤを捕えたので、彼は民よりも高い所に立って、彼らにこう言った。「神はこう仰せられる。『あなたがたは、なぜ、主の命令を犯して、繁栄を取り逃がすのか。』あなたがたが主を捨てたので、主もあなたがたを捨てられた。」

私たちは前回、ヨシャパテの生涯を学びました。彼は主の目の前にかなうことを行う善い王でしたが、アハブと縁を結んだために、大変なことになりました。妻がイゼベルの娘なので、バアル信仰が入ってきただけでなく、ユダの王家を皆殺しにしようとする試みが行われました。ヨシャパテの子ヨラムは、他の兄弟を殺しました。その子アハズヤが北イスラエルのエフーに殺されたら、母アタルヤが、王族の子たちを皆殺しにしました。けれども、ヨアシュという赤ちゃんだけは救い出せました。その子が七歳になったとき、祭司エホヤダがその子を人々の前に出して、アタルヤから王権を奪ったのです。このユダ王朝における、大変な出来事は午後に詳しく学びます。

そしてヨアシュは、七歳から統治を始めました。祭司エホヤダがきちんと主の道を教え、彼は神様を愛する人になりました。神殿がアタルヤのせいでバアル崇拝に使われたために損傷していた部分を修復することを祭司とレビ人に命じました。このようにして、礼拝をととも大切にしていました。

けれども、エホヤダが 130 歳という長寿を全うして亡くなります。その後、ヨアシュがなんと墮落します。アシェラ像を拜むようになります。そこで、預言者たちが何人か、彼にところに注意

しました。けれども、言うことを聞きません。そこでエホヤダの子ゼカリヤに神は言葉を授けました。それが、ここ 20 節です。主の命令に背いて、なぜ繁栄を取り逃がすのか。「あなたがたが主を捨てたので、主もあなたがたを捨てられた。」とても、とても重い言葉です。

1A 神に見捨てられた状態

1B 自然に啓示された神の義

神に見捨てられる、ということは実に恐ろしいことです。なぜなら、私たちは常に、絶えず神に拠り頼んでいるからです。「なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。(ローマ 1:19-20)」すべてのものは神によって造られました。朝起きたら太陽があります。たとえ曇りでも太陽があるから、光があります。蛇口をひねれば、水が出てきます。天からの雨、土の栄養分、そして作物が育ち、その胚芽から果実までの過程も神秘的です。日本という島、また国も神が造ってくださいました。だから、このようにして落ち着いた、安定した生活を暮らすことができている。そして、家族がいて、友人、知人がいて、これらすべてが造り主から与えられています。

2B 息一つの命

けれども、その神を認めないで、その神に感謝することもせず、自分で生きているのだと思っているのが、聖書では不敬虔であり不義であると言っています(ローマ 1:21-23)。自分の命、自分の生活が完全に神に頼っているのに、この方に感謝すること、この方をあがめることを何一つしていないということです。

バビロンという国の最後の王に、ベルシャツアルという人がいます。彼は、大宴会を催していました。そしてエルサレムの神殿から取ってきた器を使って、金や銀、鉄や木、石の神々を賛美しました。そこで壁に、人の手が現れて文字を書き始めたのです。ベルシャツアルは恐ろしくなり、その文字を解き明かす人を探し、ダニエルがでてきました。ダニエルは解き明かしをする前に、こう告げました。「その子であるベルシャツアル。あなたはこれらの事をすべて知っていながら、心を低くしませんでした。それどころか、天の主に向かって高ぶり、主の宮の器をあなたの前に持って来させて、あなたも貴人たちもあなたの妻もそばめたちも、それを使ってぶどう酒を飲みました。あなたは、見ることも、聞くことも、知ることもできない銀、金、青銅、鉄、木、石の神々を賛美しましたが、あなたの息と、あなたのすべての道をその手に握っておられる神をほめたたえませんでした。(ダニエル 5:22-23)」

金や銀でできている偶像を拜むのは、自分が欲することを行っているにすぎません。このように、自分の考え、自分の欲すること、こうしたことばかりをしていて、まことの天の神をあがめませんでした、と咎めています。そして、大事な言葉は、「あなたの息と、あなたのすべての道をその手に握っておられる神をほめたたえませんでした。」であります。「これまで神なしで生きてきたのだ。何を

神に頼っていきろ、などと言うのか。そんな迷信に頼りたくないね。」そうですか、では、神は要らないと言っているその息は、自分がやっていることですか？いいえ、違いますね。集中医療室で、酸素ボンベや輸血など、一瞬たりとも目を離せない状態の人に、お医者さんが細心の生命維持のための治療をするのに、同じように自分の息は、神は一瞬も目を離さないで、私たちのためにそれができるようにしてくださっているのです。主が、やめようと思えば今、この瞬間に私たちを死なせることができるのです。それをしていないのは、ただ神の憐れみによります。

3B 聖徒の死

だから、人が死ぬ時は神の時であります。人が死ぬのを見る時は、神がよしとされてその命を取られました。「祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほうがよい。そこには、すべての人の終わりがあり、生きている者がそれを心に留めるようになるからだ。(伝道者の書 7:2)」多くの人が、人の死を目にしても神を認めません。自分には確実に死が近づいています。そして、その死は神が定めておられるのだということを認めません。賢い人は、自分の死からスタートし、残りの人生を考えるのです。ですから、自分の命が完全に神に頼っていることを認めている人は幸いです。「主の聖徒たちの死は主の目に尊い。(詩篇 116:15)」その死は、全うされた命です。神の御心をこの地上で成し遂げた命です。だから尊いです。

2A 神を捨てている状態

1B 打ち消される義

ヨアシュは、その生涯において数多くの良いことを行いました。先ほど話しましたように、神殿の修復工事を断行して、主への礼拝を持続させていきました。けれども、後世の彼は自分のしたいことをするようになり、偶像を拝みました。そして、ゼカリヤがこの預言を行って、それからヨアシュは何と彼を殺すよう命令を下しました。その後です。シリヤから軍隊がやって来ました。極めて人数の少ないもので、人間的に言っても勝てそうな感じでした。ところがことごとく負けました。その理由が、「この人々が、その父祖の神、主を捨てたからである。(24 節)」とあります。そして彼は重病の状態になり、家来が彼を暗殺しました。

彼がどんなに良いことを過去に行っていたように、今、主を捨てているのなら、それらの過去の偉業は関係がないのです。エゼキエルの預言に大切な言葉があります。「もし、正しい人がその正しい行ないをやめて、不正を行なうなら、わたしは彼の前につまずきを置く。彼は死ななければならない。・・(3:20)」殺人を考えてください。これまでにどんな良いことをした人でも、その晩年に人を殺したら、彼はその良いことのために罰を免れるのでしょうか？いいえ、そうではありません。

多くの人が、霊的には違ふと思いたがっています。自分がこれまで良いことを行ってきたのだから、地獄に行くのではなくて天国に行くのだと思っています。いいえ、今、神を認め、へりくだって、この方を救い主として受け入れていなければ、過去のことはすべて打ち消されるのです。神の前に出る時には、今の自分を持っていくことができませぬ。今、イエス様から離れていて、天国に行った時に、小さなころにイエス様を信じていました、ということはいけません。

その反対も正しいです。たとえどんな悪いことをこれまでしてきたとしても、今、主に立ち返って、悔い改め、キリストの血によってその罪を赦していただくなら、神は罪を洗い清め、受け入れてくださり、そして天の御国に導いてくださいます。大事なものは、今、主と共に生きているのか？ということなのです。

神の前に出ることは、ちょうど血流に似ています。血が体内にたくさんあっても、もしそれが流れなければ脳に酸素を送り込むことはできないので、間もなく死にます。血がたくさんあるだけでは、意味がないのです。それを運ばないといけません。同じように、自分が過去に行って来た多くの良いことだと言われているものは、どんなにたくさんあっても意味がないのです。今の自分が、この体と手足が神に捧げられているかどうかによって、自分の霊的命も維持できます。

2B 取り上げらえる守り

そして神に捨てられるというということは、先ほど話しましたように、神が一瞬一瞬与えておられる、守りや支えを取り上げることによって行われます。ヨアシュがこれまでユダの国の繁栄と安息を享受できていたのは、神がそのようにしておられたからに他なりません。日本の人々が、今、このように豊かで、安定した暮らしができているのも、太陽の神や山の神ではなく、太陽も山も、そして民族に知恵を与えた天地創造の神のおかげです。けれども、神はその守りを、取り払われるという決断を、ご自分を捨てた者に対して行われます。

ローマ 1 章には、神を認めない者に対する神の怒りが明らかにされていると論じています。どのような形か、と言いますと、そのまま悪いことをするに任せることによってそうなのだ、ということです。「彼らが神を知ろうとしがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。(ローマ 1:28)」多くの人が、「神はいないじゃないか。俺がこんな悪いことをしていても、何も罰が与えられていない。」その人は思い違いをしています。それは神の怒りの現れなのです。神は、ご自分の愛のゆえに、病気になるとか、財産を失うとか、ご自分のところに引き寄せるために、そのようなことを用いてご自分のところに帰ってくるように呼びかけています。何の問題もなく、けれども自分のしたいように生きていて幸せだ、というのは、神に見捨てられたこと、その欲望のままに生きるままにしていることに他ならないのです。これほど恐ろしいことはありません。そして、その最後、死んだ後に神の裁きが待っています。

3B 恐ろしい沈黙

私たちはしばしば、間違った考えを持ちます。人との葛藤がある時、何かを言われて嫌だなど思った時、それでも人と人の付き合いができていることは幸いですよね。けれども、もしその付き合いが希薄になっていったらどうでしょうか？ 関心を寄せてもらえなくなったらどうでしょうか？ それこそが、最も恐ろしいことです。まったく声なくなる、ことが最も恐ろしいことです。マザー・テレサは、「愛の反対語は憎しみではなく、無関心です。」と言いました。声をかけないこと、放っておかれることが一番酷いことです。

ホセア書に、エフライムに対して神が注意喚起を与えておられます。初めは、5章12節に、「しみのように、腐れのようになる。」と言われました。「何か、おかしいな。変なことが起こっている。どんどん悪くなっていったのではないか。」と思います。このようにして、神は少しずつ悪いことを許されて声をかけておられますが、それをエフライムは無視しました。そして、14節に、「わたしは、獅子のようになるからだ。」と言われました。つまり、吼えるのです。とてつもない大変なことが起こることを許されます。けれども、それでも神を認めなければ、15節、「彼らが自分の罪を認め、わたしの顔を慕い求めるまで、わたしはわたしの所に戻っていよう。」ご自分のところに戻ろうとおっしゃっているのです。つまり、これは凍り付くような沈黙です。彼らが主を慕い求めるまで、神はもう声をかけることをやめることにしました。これが、神の怒りの現しかたです。

3A 神に捨てられた方

1B 隔絶せしめる罪

しかし神は愛です。その愛には終わりがありません。神はその愛を、ご自分の御子を捨てられることによってお示しになりました。イエス様が十字架上で発せられた言葉です。「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタン」「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」いかがですか、神は私たちをお見捨てになっていません。たとえご自分をゴミ箱に入れるように捨てていくような人に対しても、ご自分の御子を捨て去ることを決められたのです。

神が沈黙されるのは、私たちの祈りが聞こえないからではありません。私たちが罪を犯したので、神は聞かないのです。「見よ。主の御手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて、聞こえないのではない。あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。(イザヤ 59:1-2)」罪が仕切りとなっているので、神が私たちの言っていることに耳を貸さないのです。このように罪は断絶を生みます。罪は人と人に断絶をもたらしますが、神と人との間にも断絶をもたらします。

2B 十字架にある声

しかし、神はその罪をご自分の御子の上に置かれたのです。「私たちはみな、羊のようにさまよひ、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。(イザヤ 53:6)」神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあつて、神の義となるためです。(2コリント 5:21)」ちょうど私たちの罪がイエス様の上に置かれた時に、イエス様が罪とみなされた時に、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」とイエス様は祈られました。それは、神がこの十字架によって、私たちと神を隔てる仕切りを取り除いて、私たちに近づいておられるからです。

もはや、私たちに神は沈黙しておられません。私たちは、「なぜ、神は私を見捨てられたのだろう。」と言う必要はありません。あの十字架は、大きく語っているのです。もし、自分が見捨てられたと思って、神の臨在を感じる事ができないと思っているのなら、どうすれば神の声をまた聴くことができるのか悩んでおられるのなら、十字架に来てください。十字架で、神に見捨てられた方がそ

の思いを叫ばれたのです。神は、あなたを愛しておられます。あなたを見捨てる代わりに、ご自分の独り息子を見捨てることを選び取られました。

そして、その罪の代価をキリストが支払ったので、神はキリストを三日目によみがえらせました。確かに神はあなたを愛していることを、イエスをよみがえらせ、あなたが確かに見捨てられないことを明らかにされました。

3B お近くにおられるうちに

主は言われます。「主を求めよ。お会いできる間に。近くにおられるうちに、呼び求めよ。悪者はおのれの道を捨て、不法者はおのれのはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。(イザヤ書 55:6-7)」

もしかしたら、ヨアシュのようにすでに神を無視してきたことによって、何らかの虚しさ、恐れ、不安、断絶などを経験しておられるかもしれません。無視しつづけたら、本当に神は沈黙します。そして、死後は、まったく神の語りかけのない沈黙の場所、地獄に行かなければいけません。けれども、遅すぎることはありません。今、神の声を聞いておられたら、そのまま来てください。神は待つておられます。あなたを罰することはありません。いや、今までの裁きでもう十分です。神のところに来れば、豊かな憐れみがあります。豊かな赦しがあります。